

自由民主党国土強靱化総合調査会レポート NO. 52

自由民主党国土強靱化総合調査会（会長：二階 俊博衆議院議員）の会議が下記の通り開催されましたのでご報告致します。

1. 日 時 平成 25 年 6 月 21 日（金）8:00~9:00
2. 場 所 党本部 704 号室
3. 参 加 者 二階俊博会長、林幹雄会長代理、上杉光弘副会長、江崎鐵磨副会長、
金田勝年副会長、脇雅史副会長、吉川貴盛事務総長、伊藤忠彦事務総長補佐、
土屋正忠常任幹事、赤澤亮正、衛藤征士郎、桜井宏、中川郁子、福井照、
木内均、加藤寛治、白須賀貴樹、門博文、湯川一行、武部新、今津寛、
田中和徳、城内実、小林鷹之、阿部俊子、平沢勝栄、宮澤博行、務台俊介、
堀内詔子、岡田広、櫻田義孝、左藤章、伊藤信太郎、中村裕之、原田憲治、
原田義昭 他（順不同）
4. 議 題 「防災・命の道をめざす異種の道ネットワーク」
（講師）慶応義塾大学特任教授 米田 雅子 氏
5. 講演要旨
 - ① 日本には、国道や市町村道、農道、林道等以外の地図に載っていないような道も多い。例えば、電力会社の送電網の管理道やNTT等の電波塔の管理道、林業のための道、砂防施設の管理道、自転車道などで、これらの道は市町村でもきちんと把握できていない。異種の道ネットワークの趣旨はこのような「異種の道」を洗い出して地図上にプロットし、どこにどのような道があるのかをきちんと把握しようということ。そして、官の道と民の道を結び、さらに災害協定や森林整備協定を結ぶことにより、森林整備や防災に必要なネットワークを最小のコストで構築する。これが南海トラフ地震対策や孤立集落の対策にも繋がると考えている。
 - ② 岐阜県高山市、下呂市、飛騨市、白川村の3市1村にJAPIC（日本プロジェクト産業協議会）などが加わり、その地域の異種の道について検討する「ひだ異種の道ネット検討会」を結成。そこで実際に異種の道を含む高山市全域の地図を作成した。今年度は下呂市で引き続きパイロット調査を実施しており、そこで異種の道の課題や効果を調査・検討する予定である。
 - ③ 異種の道をつなぐネットワークづくりの第一ステップは全ての道を把握すること。第二ステップは異種の道をつないで最小のコストで必要なネットワークを作ること。そして第三ステップは、そのネットワークを活用し、今、国土強靱化で大変大きな問題となっている、

避難路などの命の道や、国土保全の道とすることである。また、異種の道ネットワークは林業を支える道となることもでき、雇用等の面からも大きな役割を持つ。こことここを結んでおけば少なくともネットワークができるというところが身近にあれば、積極的に結んでいくべき。また、今は使われていない赤道や里道は線形がよいものも多く、そういった道を補強して活用することにより、異種の道のネットワークを広げていくこともできるのではないかと思っている。

- ④ それぞれの道はそれぞれの法律に基づいて整備されており、道路の規格が異なることが大きな課題。ただつなぐだけではなく、どのレベルまで通れるようにつなぐか。本当に避難していくためにどのルートが一番大事かを考えて、必要なところをつなげていく時に、どの程度の規格が必要で、どの予算を使ってつなげていくかは1つの問題。これをまとめていくには、どこかの省庁のどこかの課が担当したらできるというものでは無いため、国土強靱化の傘の下に、各省庁の連携を政治主導で進めていただき、課題解決につなげていただきたい。
- ⑤ 実際に異種の道をつなぐ道の整備を行っていく際、今のB/Cという評価ではなかなかペイしない。そこで今回のひだ異種の道ネット検討会の報告書では、防災効果や国土保全森林保全、民間事業活性化と言った効果を含めた総合評価方式が必要ではないかということを提案している。
- ⑥ 昨年の取組みにおける一番の効果は、どこにどのような道があるか把握できたということ。今回の取組みの中ではGISを使ってそれぞれの道やその他の情報を重ねあわせているため、将来的にも道路を含む山間部のインフラの管理などに大きな効果がある。このように情報を整理しておくことによって行政の効率化が図れるのではないかと考えており、いろんな所にいろいろな形である地図情報を統合することに予算をつけてほしい。
- ⑦ 異なる規格の道を安くつなげるための柔軟な運用など、民間の道を活用するために国を挙げて取り組んでいただきたい。今の整備コストではB/Cが低いが、コストを下げることで十分な費用対効果を得ることができるようになる。異種の道をつなぐための低コストで壊れにくい道の技術開発等も必要。さらに、民間企業の低コスト技術の開発と一緒に道等の基準も考えることなどに政治家の皆様の支援をお願いしたい。
- ⑧ 飛騨高山地域は自然災害が多く脆弱な地域であるが、昨年度取組みで飛騨高山地域に存在する異種の道を把握できたことで、防災や災害対策に役立つことが確認された。また、東日本大震災の際、釜石では海側の道が被災した中、山側の林道作業道等が「命の道」となって人々の命を救い、救援物資の輸送に活用された。南海トラフ地震に備えて、「異種の道」を含めた全ての道を把握し、それを避難計画の策定に役立て、命の道を確保することが必要。GISを使った異種の道づくりをぜひお願いしたい。
- ⑨ 異種の道ネットワークはすごくシンプルでわかりやすい施策であるが、所管がなく、政治的には結構ハードルが高い。国交省の道路局に是非お願いしたいと思っているが、道路法以外の道が多く入っている。是非国土強靱化で傘を作っていただき、全体が連携して、異種の道をぜひ進めていただきたい。

6. 主な意見

- ・ 省庁をまたがる内容を含む本提案について、高山市でのパイロット調査の予算をどう獲得したのか。
- ・ 本提案の全国への波及、進捗の状況を教えてほしい。
- ・ GIS 基盤整備の必要性、地域の様々な情報を集約して活用する必要性は良く理解している。ただし、様々な情報を集約する上で、地籍が整理されていないと物事が前に進まない現状がある。我が国では、緊急性のある事項に予算を充てることが前提となっているため、地籍調査が後回しになっている状況であり、国土強靱化のネックになっている。米田先生にも是非、各方面でご指導いただきたい。
- ・ 国土交通省の官民連携事業は、PFI に限らず官と民が連携して行う様々な事業を幅広く支援している。今回のご提案のように、普通の省庁の枠にはまらないようなものがあれば、是非ご連絡いただきたい。また、情報集約、GIS 等については、重要であると認識している。夏から秋に向けて、国土強靱化の具体策を検討しているので、本日のご提案も含めて、検討していきたい。

※ご意見送付先

【事務局】自由民主党政務調査会

国土強靱化総合調査会 担当

TEL : 03-3581-6211

・ (内線5431)

FAX : 03-3581-6700

E-MAIL : kokudo-kyojinka@mail.jimin.jp

以上

自民党・国土強靱化総合調査会

米田 慶大教授 「異種の道」で講演

自民党の国土強靱(きょうじん)化総合調査会(二階俊博会長)が21日に開かれ、米田雅子慶応義塾大学特任教授(写真)は、岐阜県内で進めている「防災・命の道をめぐる異種の道ネットワーク」の取り組みについて講演した。米田教授は「道路には地図に載らない多くの国有林道や民間道がある。こうした『異種の道』をいかに活用し、防災対策や孤立集落対策に役立つ」などと事業の効果を説明した。



異種の道ネットワークは、道路地図に載らない道(河川管理道、砂防管理道、林業専用道、電力管理道など)を地理情報システム(GIS)などを使って把握し、最小コストでネットワーク化と

行政 経済

してつなげようといった取り組み。

米田教授を座長とする「ひだ異種の道ネットワーク」が、岐阜県高山市や下呂市でモデル事業を行っている。検討会には、国・県・地元自治体のほか、林業や建設業などの地元企業も参加している。

米田教授はモデル事業で異種の道を把握したことで「いかに隠れた道路という財産があるかを確認できた」とし、防災

災害対策、国土保全、森林再生などとともに、過疎地域の活性化なども期待できるネットワーク化による効果を説明した。

一方、異なる規格を持つ道路のネットワーク化には「政治的なハードルが高い」と法制度上の課題を指摘し「国土強靱化の枠組みの中で実現を図ってほしい」と参加議員に協力を呼び掛けた。

国土強靱化総合調査会
平成25年6月21日

防災・命の道をめざす異種の道ネットワーク

日本プロジェクト外産業協議会・森林再生事業化委員長

ひだ異種の道ネットワーク 座長

慶応義塾大学 特任教授 米田 雅子

下呂市の公道(国・県・市道・農道・林道)

下呂市の公道(国・県・市道・農道・林道)

下呂市の道路地図には
公道しか載っていない。



下呂市の異種の道（公道＋民間道＋国有林道）

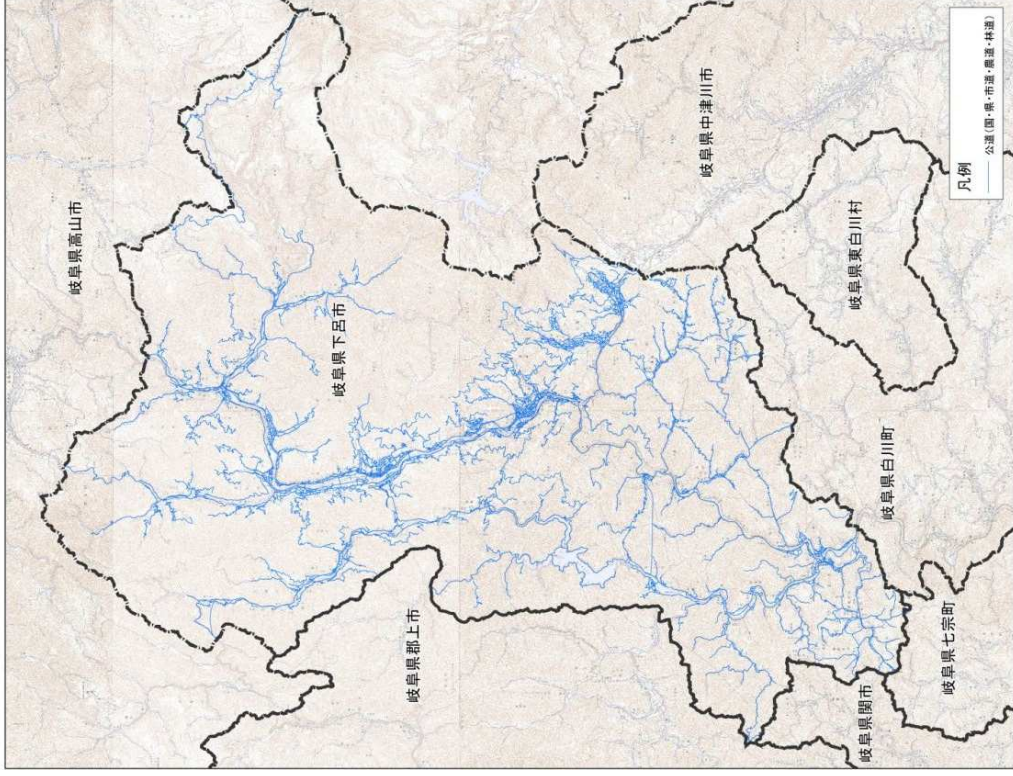
下呂市の公道・国有林道・民間道

下呂市の道路地図に載っていない多くの道（民間道と国有林道等）がある。

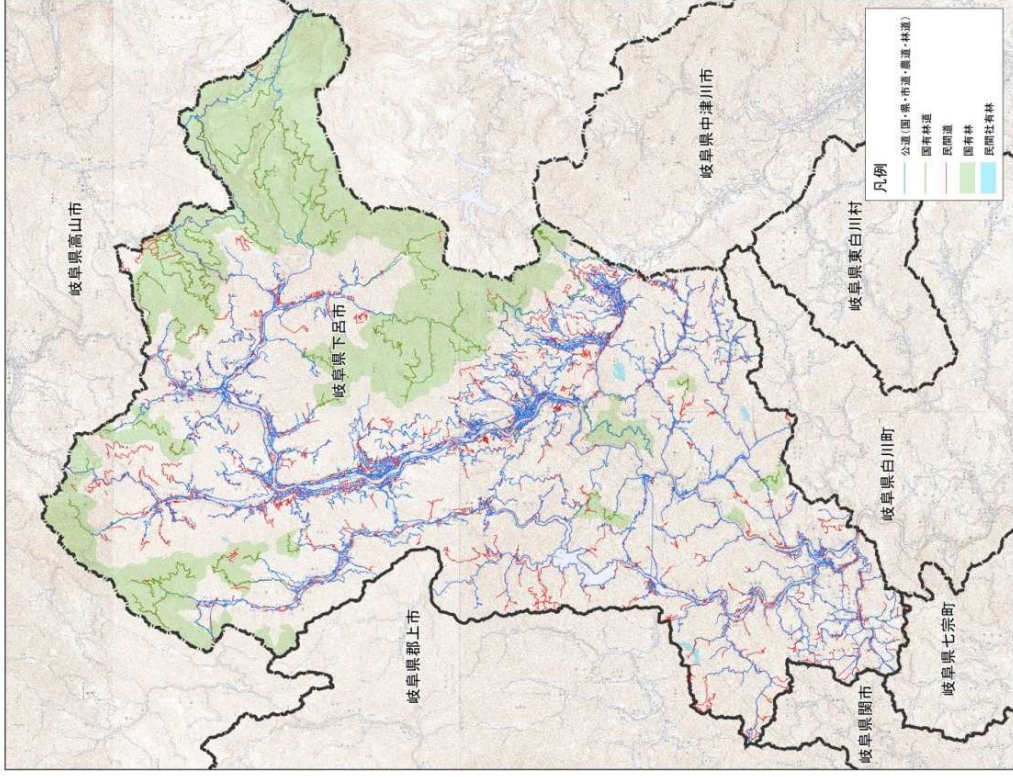


下呂市全域の道路地図と「異種の道」

下呂市の公道(国・県・市道・農道・林道)

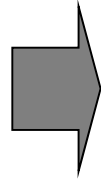


下呂市の公道・国有林道・民間道

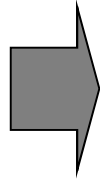


異種の道をつなぐネットワークづくり

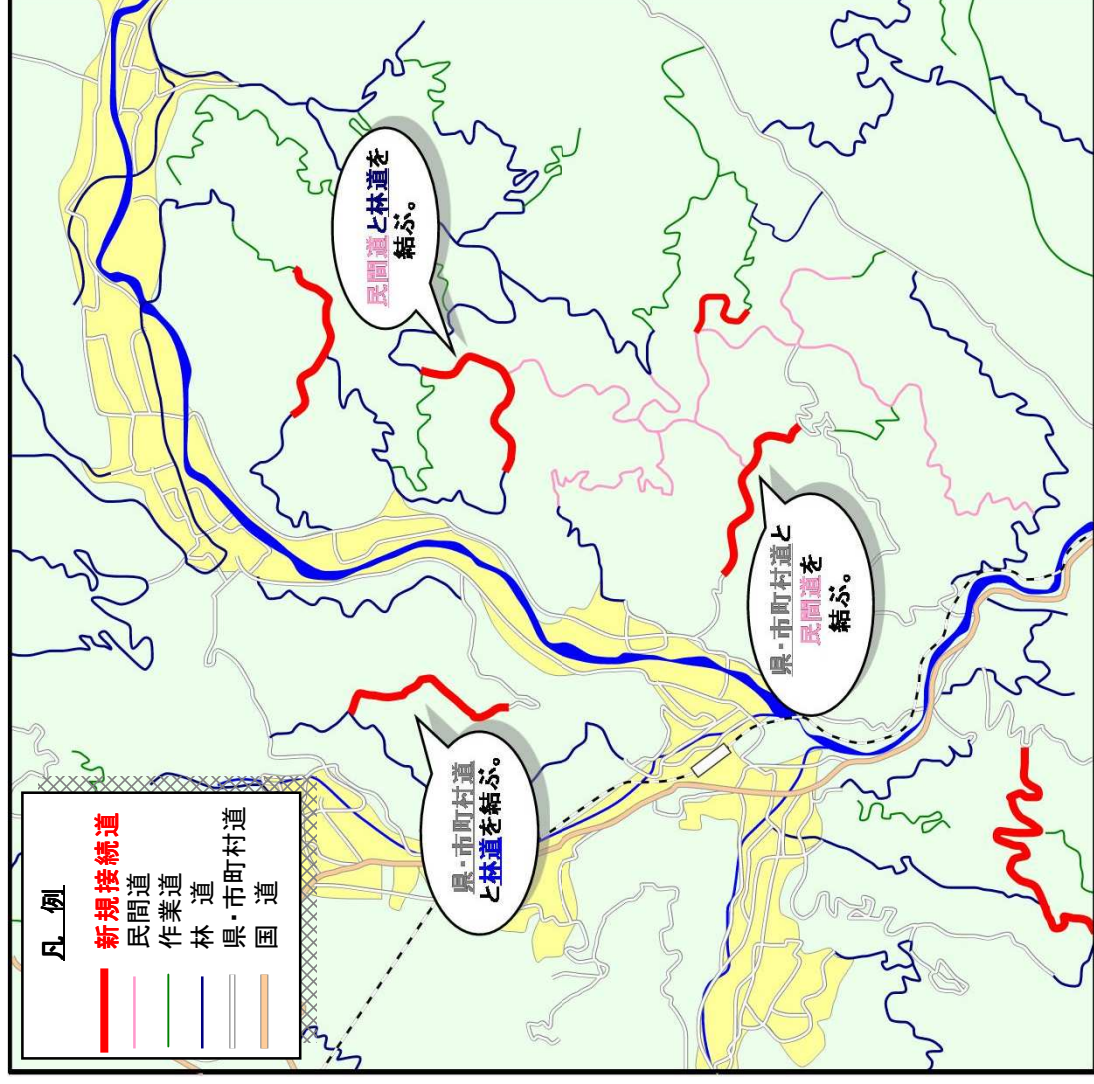
全ての道(公道+民間道)を把握しよう



異種の道をつなぎ、最少コストでネットワークを作ろう



•防災・命の道
•国土保全、森林整備のための道



『ひだ異種の道ネット』検討会の体制

- 【有識者(座長)】 米田雅子慶応義塾大学特任教授
- 【地方自治体】 高山市、下呂市、飛騨市、白川村
- 【国関係】 国土交通省(高山国道事務所)
林野庁(飛騨森林管理署)
県土整備部、林政部
- 【岐阜県】 岐阜県森林組合連合会
- 【民間企業等】 飛騨高山森林組合
たかやま林業・建設業協同組合
製紙会社、電力会社
日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)
国際航業

「異種の道」の種類と管理者

地図に載っている道

- 国道(国土交通省)
- 県道(都道府県)
- 市町村道(市町村)
- 林道(市町村)
- 農道(市町村)

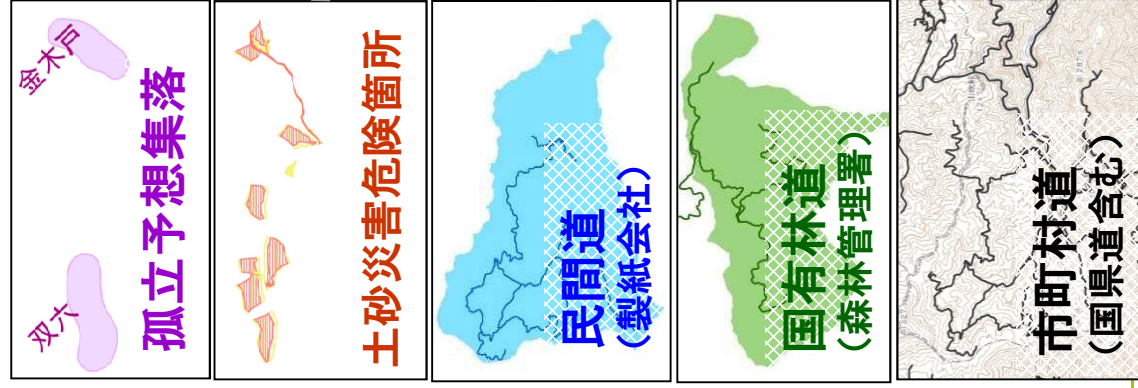
地図に載っていない道

- 河川管理道(国または都府県)
- 砂防管理道(国または都府県)
- 臨港道路(国または地方公共団体)
- 自転車道(国または地方公共団体)
- 里道・赤道(多くが不明)

地図に載っていない民間道

- 林業専用道・林業作業道
(森林組合・企業・個人など)
- 農業の作業道
- 電力管理道(電力会社)
- 通信管理道(通信事業社)
- 製紙会社道(製紙会社)
- 私道
- …

異なる道の情報収集と重ね合わせ



□ 異種の道、災害情報等を可視化 (GIS 基盤)

■ GIS: 地理情報システム

データの重ね合わせ

データの重ね合わせ

地図から入力

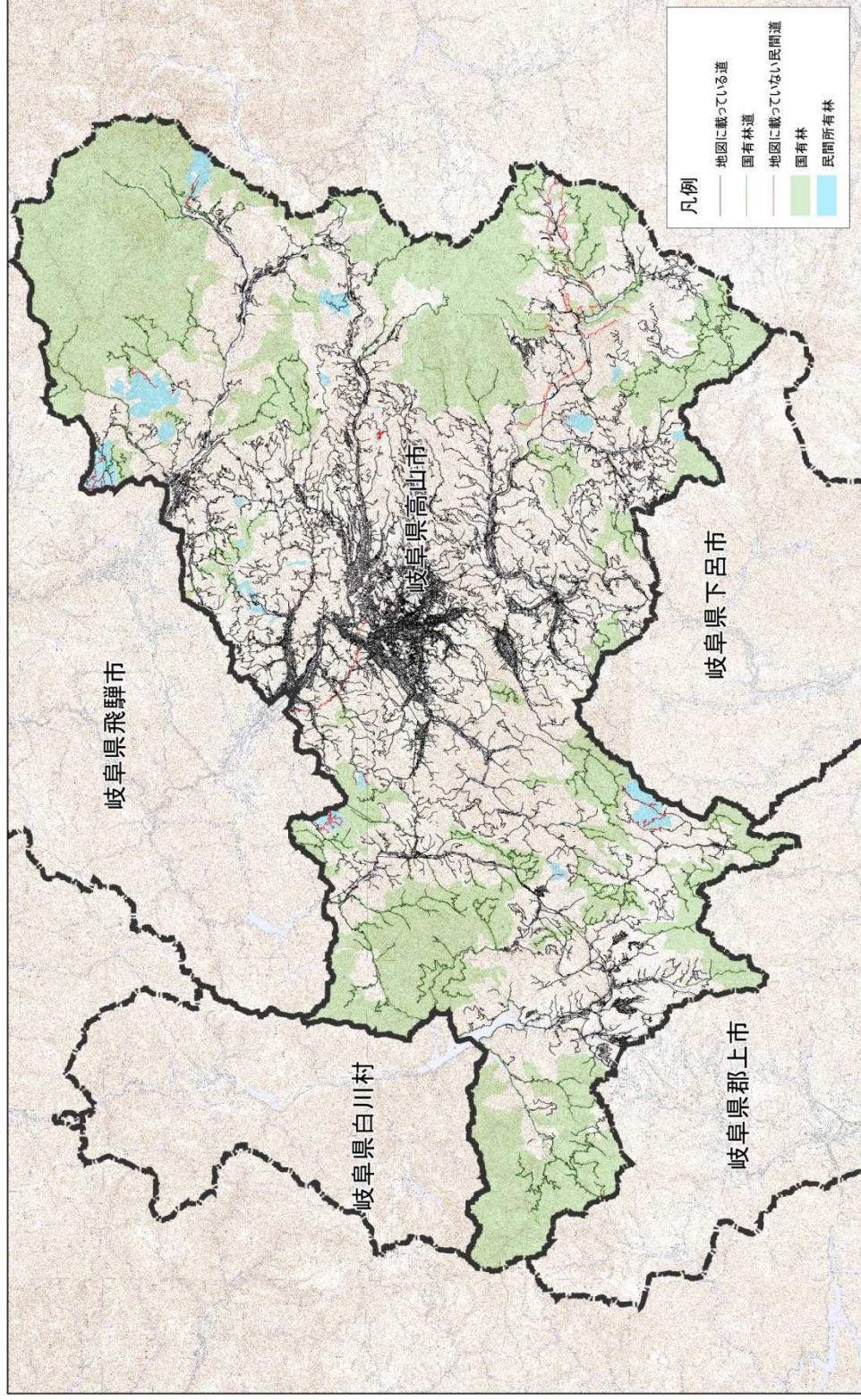
データの重ね合わせ

データの重ね合わせ

3次元化も容易！！

高山市全域の「異種の道」の地図を作成

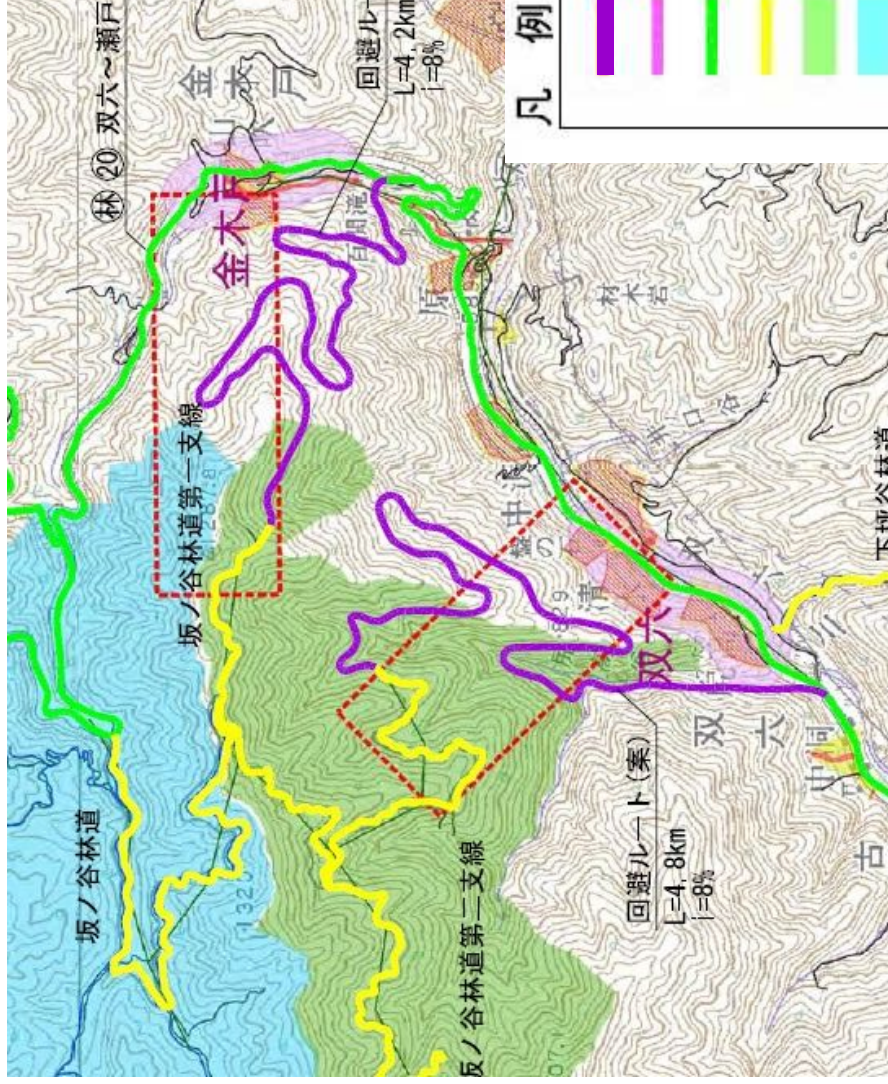
高山市の公道・国有林道・民間道



背景地図として、国土地理院発行の5万分の1地形図を使用

高山市における接続道検討例

□【へ】】孤立予想集落からの回避ルート検討



①接続道の整備コスト



②孤立集落の対策効果

③森林施業の効果

④国土保全事業の効果

...

総合的な評価方法の立案

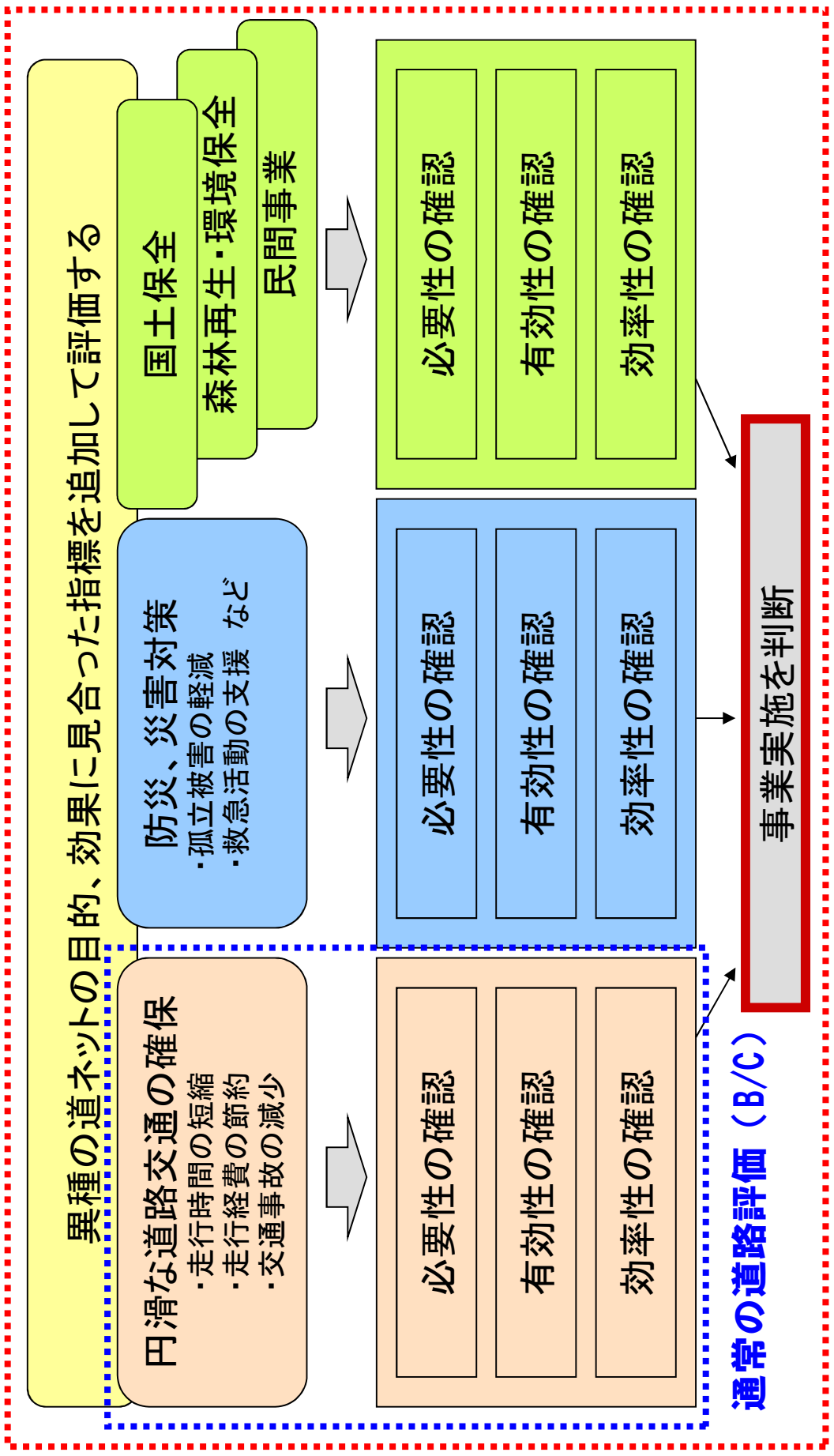
異種の道の制度上の課題

さまざまな異種の道には、異なる準拠法令、定義、管理、管理者、利用対象車両、道路構造、適用規定があるため、異種の道をつなぐためには法制度上の工夫が必要。

異種の道	準拠法令	種類	道路の定義	管理者	利用対象車両	道路構造	検討課題	
							技術的な課題	法制度上の課題
公道	道路法第5条、7条	・国道(指定区間、指定区間外)、都道府県	全国的な幹線道路網や地方的な幹線道路網を構成し、かつ一定の法定要件に該当する道路	国土交通大臣又は、都府県	乗用車、トラック、バスなどが一般車両の通行する	道路法第30条:道路構造令で規定:国道の一般的な技術的基準及び道路管理者である地方公共団体の条例で都道府県道の構造の技術的基準	・接続箇所の構造(幅員、線形など) ・道路管理に関するルール・協定の策定	
自転車道	自転車道の整備等に関する法律	・自転車専用道路 ・自転車歩行者専用道路	もっぱら自転車の通行の用に供することを目的とする道路又は道路の部分。自転車及び歩行者の共通の通行の用に供することを目的とする道路又は道路の部分。	国土交通大臣又地方公共団体	自転車	自転車道の整備等に関する法律および道路構造令に規定される構造	・構造的(幅員、舗装など)に車両の通行可否の確認	・道路管理に関するルール・協定の策定
里道	国有財産法	・里道	通常「赤道」といわれ、道路法の適用のないいわゆる認定外道路の一つである	敷地が国有地であるものについては、都道府県知事	車両の通行ができない場合が多い	幅員2m未満の道路	・道路構造として接続に適さない	・管理者が不明の場合が多く、適さない
作業道	-	・基幹作業道 ・作業道 ・作業路	特定の森林整備を行うための施設 林道の支線で一時的な施設	森林組合等の 長又は森林所有者	林業作業車両、トラックなど	目的とする森林整備にあつた簡易な構造		
電力管理道	-	-	電力施設(鉄塔、ダムなど)の日常管理のための道路	電力事業者	管理車両、トラックなど	施設管理を目的とし、管理車両、点検車両などが通行できる構造	・一般車両走行による幾何構造上の整合 ・幅員、舗装など整備レベルの一貫性への対応	・日常通行の可否 ・常時開放した場合の管理責任の所在 ・補修などの費用負担
製紙会社道	-	-	森林整備を行なうための施設道路	製紙会社	林業作業車両、トラックなど	林業作業を目的とし、作業車両が通行可能な構造		

通常の道路評価(B/C)ではない総合的な評価を提案

ひだ異種の道ネット検討会が提案する総合的な評価

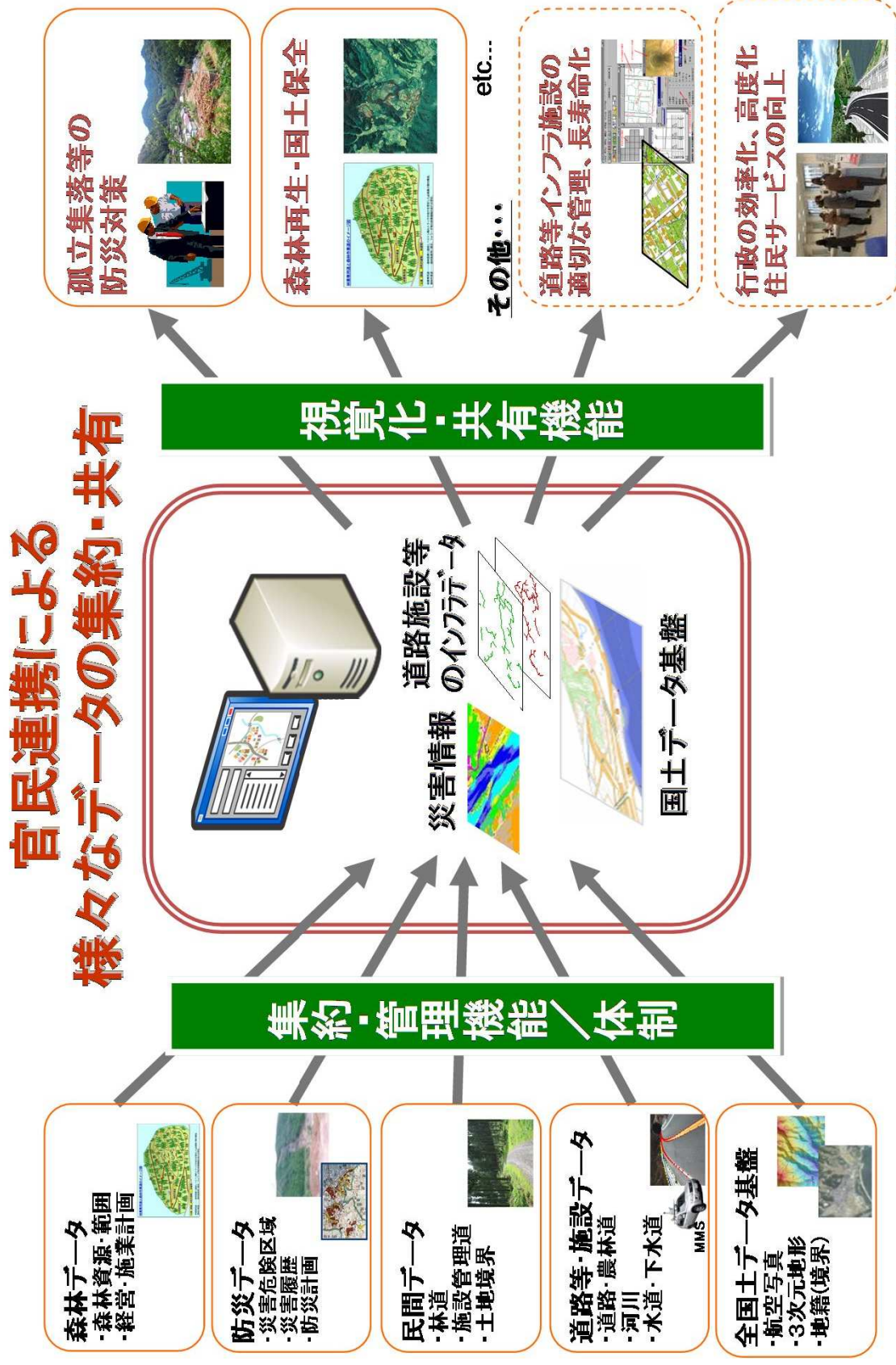


異種の道ネットの効果

- 高山市に存在する異種の道が把握できた。
- 様々な分野での効果が期待される。
- 過疎地域の活性化(地域産業の創出)も期待！！

事業分野	効果
防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none">・孤立集落の回避・災害の早期復旧
国土保全	<ul style="list-style-type: none">・治山治水・急傾斜地崩壊対策
森林再生	<ul style="list-style-type: none">・森林資源の活用、計画的な森林施業・水源かん養機能、土砂災害防止機能
環境保全	<ul style="list-style-type: none">・地球温暖化防止・自然生態系の保全
民間事業	施設管理道や社有林道へのアクセス効率化、等

集約した情報の用途



異種の道ネットに必要な施策

- **異種の道のGISによる情報共有**
 - 異種の道の現状調査（地図データ収集、現地調査）
 - GISによる道路情報の共有・可視化
- **異種の道を接続するための環境整備**
 - 異なる規格の道をつなぐ際の法制度上の課題に対する措置
 - 民間事業者との連携における課題解決（災害協定、維持管理、事故発生時の責任所在など）
- **パイロット事業の実施**
 - 異種の道による命の道ネットワークづくりの計画
 - 接続道の新設、既設民間道の補強
- **低コストで壊れにくい道の技術開発・試行**
 - 異種の道に必要な低コストで壊れにくい道の実現

低コストで壊れにくい道の技術開発・試行

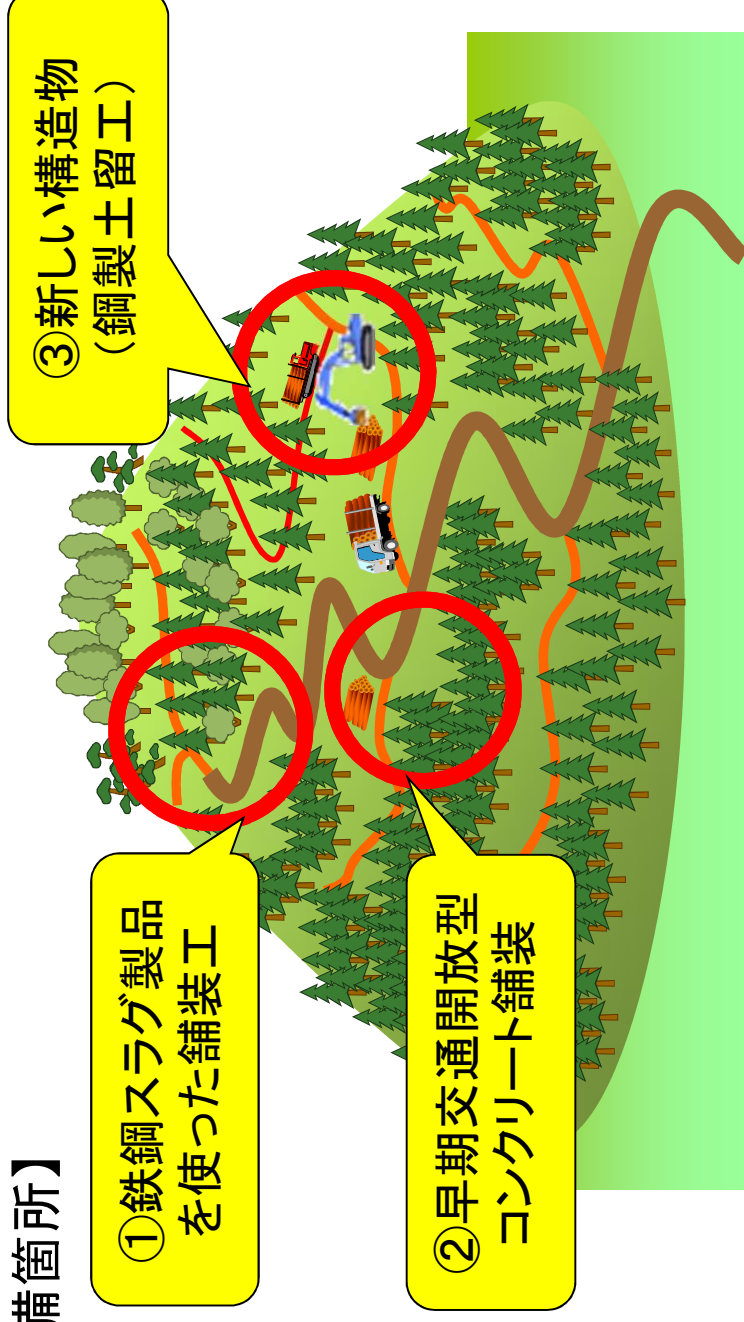
(民間企業の取組み)

壊れにくい道の整備に求められるもの

- ・低コスト
- ・安全性
- ・耐久性
- ・短工期
- ・施工の容易性、柔軟性
- ・環境に優しい材料

【壊れにくい道の整備箇所】

- ・急勾配箇所
- ・傾斜地
- ・ヘアピンカーブ
- ・軟弱地盤 など



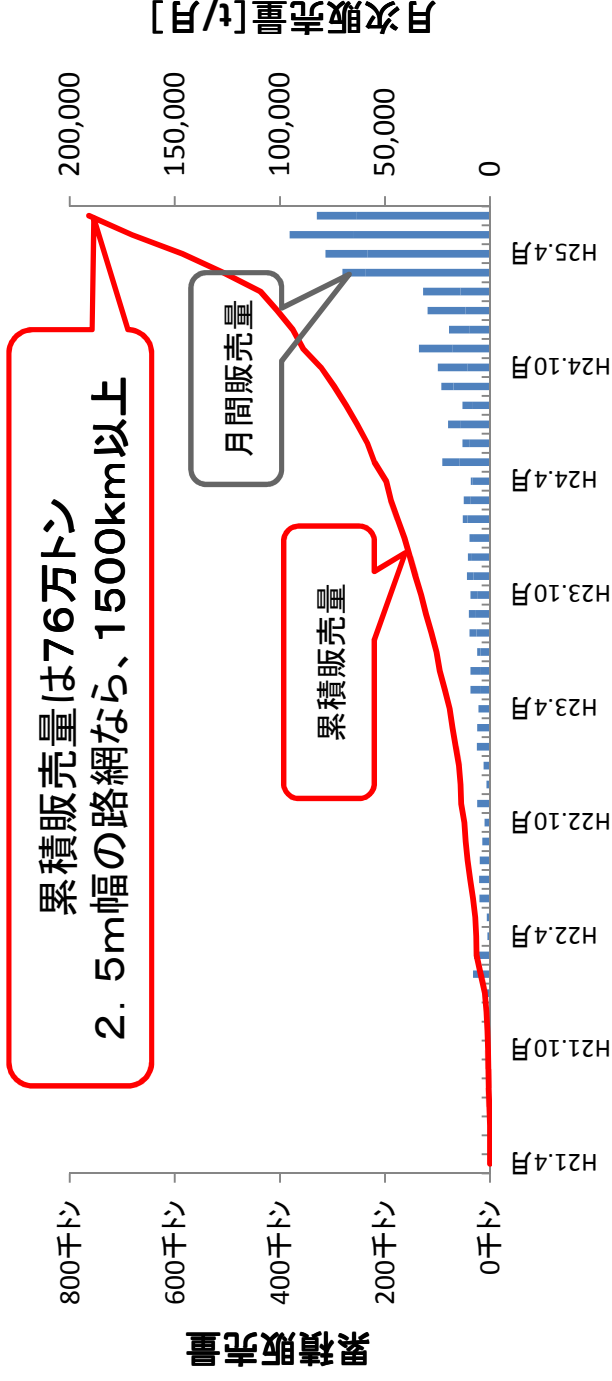
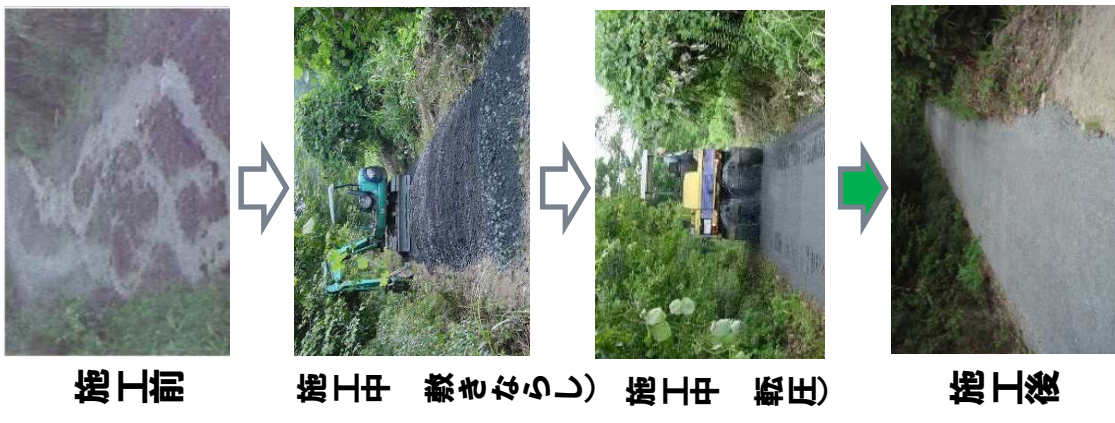
低コストで壊れにくい道の技術開発・試行

(民間企業の取り組み)

①鉄鋼スラグ製品を使った舗装工

原料：製鉄所の副産物(スラグ)
製品：大分県リサイクル認定品

- 【材料費が安価】 原料は製鉄所から発生する副産物(スラグ)
- 【施工が容易】 施工は敷きならし⇒散水⇒転圧のみ(大型設備等不要)
- 【施工性が柔軟】 傾斜地、軟弱地盤でも施工可能、短工期、降雨時も作業可能
- 【快適な供用性】 しっかり固まるので、車両の走行はスムーズ



低コストで壊れにくい道の技術開発・試行

(民間企業の取り組み)

②セメント系舗装:「1 DAY PAVE(早期交通開放型コンクリート舗装)」(セメント協会開発)

【優れた耐久性】

◆ヘアピンカーブや急勾配箇所へ耐久的なコンクリート舗装を適用

【早期の供用性】

◆施工した翌日には供用可能、異種の道ネットワークを早期に構築

【優れた視認性】 夜も見やすい白い舗装面で、高い安全性を確保

【施工が容易】 特殊な機械は不要、地元住民との協働で簡単に施工

【汎用性の材料】 全国どこでも入手可能な「早強セメント」を使用

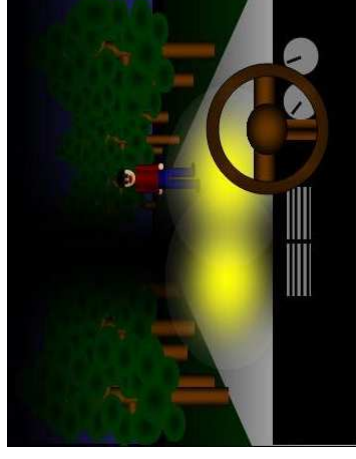
【低コスト・環境配慮】スラグ骨材等の副産物、リサイクル材、瓦礫の有効利用



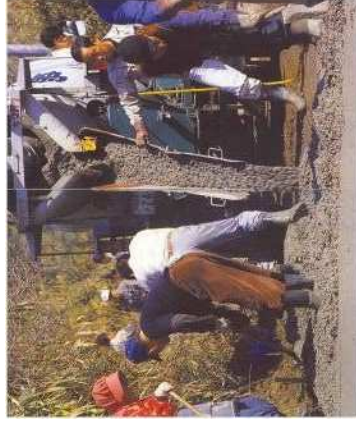
ヘアピンカーブ



急勾配箇所



見やすい舗装



容易な施工(人カ施工)

低コストで壊れにくい道の技術開発・試行

(民間企業の取組み)

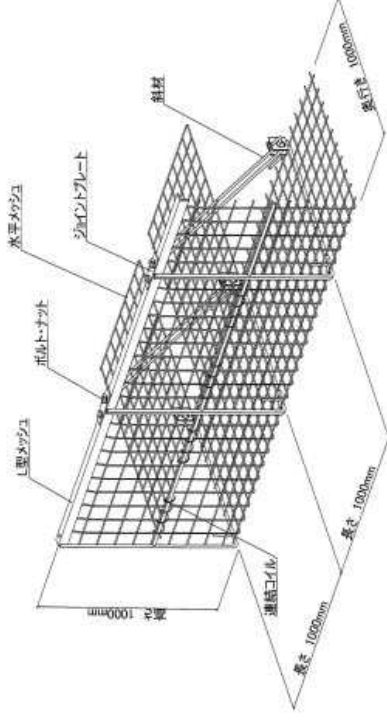
③新しい構造物の開発(鋼製土留工)

- ・低コストで山間部施工に適した構造物の開発
- ・安全、耐久性に優れ大型林業機械走行が可能



急勾配、ヘアピンカーブ対応

軽量、高強度で組立が簡単な鋼製土留工



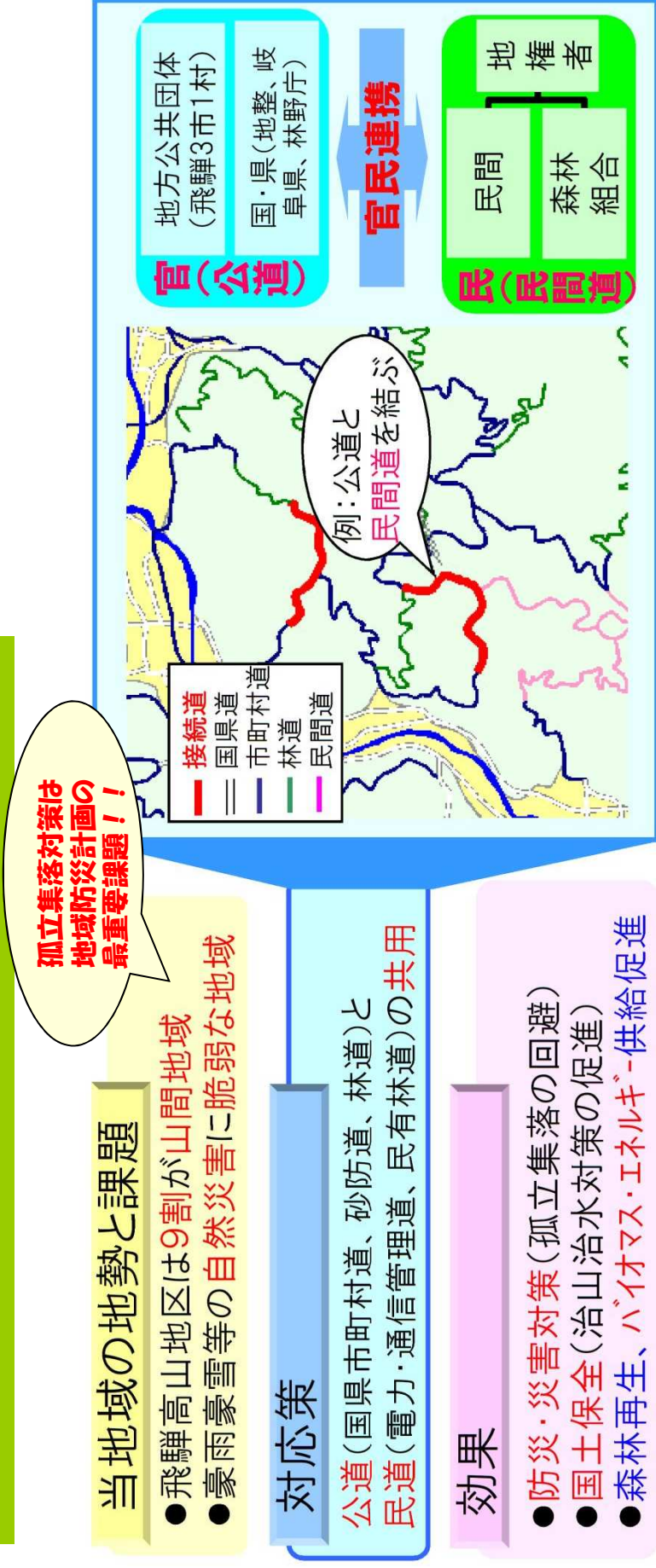
鋼製土留工の設計図例



鋼製土留工の施工事例(京都府)

新型フォワーダ走行試験

ひだ異種の道ネットワーク検討会のまとめ



飛騨高山地区(山間地域)に存在する全ての道を把握できたことは、今後の防災・災害対策や森林再生に役立つことを確認した。

東日本大震災における「命の道」事例

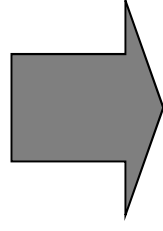
□ 「命の道」として利用された林道

釜石市平田尾崎白浜地区では、大津波により沿岸の道路が寸断され、孤立状態となった。その際、集落の山側にある林道作業道が「命の道」となり、住民の避難路、救助・復旧路として利用された。他の集落でも、多くの林道が「命の道」として利用された。



南海トラフ地震に備えて

- 関東～九州にかけての太平洋沿岸で、「命の道」が求められている。
- とくに、和歌山県、高知県など、沿岸部が急峻な地域では、山中の「命の道」が重要！！



異種の道ネット形成を進めよう！！
～GISを使った異種の道の地図づくりから

参考

JAPIC「森林再生事業化委員会」 委員名簿（敬称略） 平成25年6月21日現在
 （オブザーバー委員を除く）

		企業名等	委員名	所属・役職名	
委員長		慶應義塾大学	米田 雅子	理工学部 特任教授	
顧問		東京都市大学	中村 英夫	総長	
		奥野総合法律事務所 （一財）建築環境・省エネルギー機構	奥野 善彦 村上 周三	所長 弁護士 理事長	
委員	大学	東京大学	安藤 直人	名誉教授（農学生命科学研究科 特任教授）	
		東京大学	酒井 秀夫	大学院農学生命科学研究科 教授	
		東京大学	鮫島 正浩	大学院農学生命科学研究科 教授	
		東京工業大学	和田 章	名誉教授、日本建築学会会長	
		早稲田大学	濱田 政則	理工学術院 社会環境工学科 教授	
		慶應義塾大学	伊香賀 俊治	理工学部 教授	
	団体	北海道経済連合会	恩村 裕之	専務理事	
		（一社）東北経済連合会	坂本 敏昭	専務理事	
		北陸経済連合会	水野 一義	専務理事	
		（一社）中部経済連合会	伊藤 範久	専務理事	
		（公社）関西経済連合会	川邊 辰也	専務理事	
		中国経済連合会	鎌倉 秀章	専務理事	
		四国経済連合会	三木 義久	専務理事	
		（一社）九州経済連合会	惣福脇 亨	専務理事	
	民間企業名 （50音順）	製紙	王子ホールディングス株	島村 元明	取締役常務グループ経営委員 資源環境ビジネスカンパニープレジデント
			日本製紙株	藤澤 治雄	取締役原材料本部長
		エネルギー	東京ガス株	村木 茂	代表取締役副社長 執行役員
			新日鐵住金株	徳田 英司	プロジェクト開発部 開発室長
		鉄鋼	日鐵住金建材株	廣岡 成則	常務執行役員
			日本合板工業組合連合会	川喜多 進	専務理事 兼 事務局長
製材 合板 パレット等		株イワクラ	中出 海	管理部 技術開発室長	
		兼松日産農林株	水谷 羊介	ジオテック事業部 技術部長	
		越井木材工業株	越井 潤	代表取締役社長	
		大建工業株	長谷川 賢司	情報業務部長	
		中国木材株	松岡 秀尚	開発部長 兼 管理部長	
		ナイス株	桃溪 崇	資材事業本部木材事業部 東日本木材統括部長	
		矢崎エナジーシステム株	清水 一雄	取締役 常務執行役員 環境システム事業部長	
機械		IHI建機株	丹 昭弘	取締役営業統括部統括部長	
		イワフジ工業株	及川 雅之	代表取締役社長	
		コマツ	木戸 令雄	林業機械事業部 事業部長	
		住友建機販売株	見坂 正義	企画部 応用機営業担当 主査	
セメント		住友重機械工業株	永米 圓	エネルギー環境事業部営業本部第1営業部 担当部長	
		日立建機日本株	曾禰 広志	広域営業統括部長	
		株レンタルのニッケン	応縁 団太郎	アセットマネジメント部長	
	住友大阪セメント株	井ノ川 尚	取締役執行役員		
測量	国際航業株	上野 俊司	副社長執行役員		
	アジア航測株	沼田 洋一	理事 総合研究所長 フェロー		
住宅	住友林業株	能勢 秀樹	顧問		
	積水化学工業株	刈茅 孝一	環境・ライフラインカンパニー 技術・開発センター 企画室 部長		
	大和ハウス工業株	原納 浩二	執行役員 都市開発部長		
	三井ホーム株	日塔 淳一	執行役員 調達企画部長		
商社	大東建託株	加藤 富美夫	技術部 次長		
	ITCグリーン&ウォーター株	田辺 聡	森林資源事業部長		
	三井物産株	守屋 義広	環境・社会貢献部長		
	三井物産フォレスト株	吉田 正樹	企画業務部長		
建設	三菱商事株	佐野 晃	資材本部住宅資材ユニット木材・建材担当マネジャー		
	株大林組	岡島 豊行	土木本部 営業推進部長		
	鹿島建設株	岡 和彦	環境本部 部長		
	株熊谷組	久保木 政充	プロジェクトエンジニアリング室 課長		
	清水建設株	丹 博美	第一土木営業本部 インフラ再生プロジェクト室長		
	大成建設株	岸田 恒明	環境本部環境開発部資源循環開発室 課長		
	株竹中工務店	水谷 敦司	環境エンジニアリング本部 課長		
金融機関	飛鳥建設株	三輪 滋	執行役員 建設事業本部 技術研究所長		
	株日本政策金融公庫	三村 嘉宏	農林水産事業本部 営業推進部 副部長		
シンクタンク	株三菱総合研究所	白戸 智	地域経営研究本部 地域経営コンサルティンググループリーダー		
	JAPIC	JAPIC水循環委員長 JAPIC国家戦略課題委員長	竹村 公太郎 高島 正之	公益財団法人リバーフロント研究所 代表理事 横浜港埠頭株代表取締役社長（元三菱商事 副社長）	

本資料の連絡先：（一社）日本プロジェクト産業協議会 常務理事 門脇直哉 (Email: kadowaki@japic21.or.jp)
 TEL: 03-3668-2885 事業企画部 五島寧人 (Email: goshima@japic21.or.jp)

学術の動向

3

2013

MARCH 2013 VOLUME 18 NUMBER 3
SCJ FORUM 日本学術会議

【特集】

巨大災害から生命と国土を護る —三十学会からの発信—

和田 章／濱田政則／岸井隆幸／福和伸夫／重川希志依／浅見泰司／
矢部 彰／目黒公郎／依田照彦／田村和夫／米田雅子

三十学会・共同声明

国土・防災・減災政策の見直しに向けて
— 巨大災害から生命と国土を護るために —

平成24年(2012年)6月10日

- 東日本大震災の総合対応に関する学協会連絡会
- 環境システム計測制御学会
 - 空気調和・衛生工学会
 - 子ども環境学会
 - 砂防学会
 - 地域安全学会
 - 地理情報システム学会
 - 地盤工学会
 - 土木学会
 - 日本応用地質学会
 - 日本火災学会
 - 日本活断層学会
 - 日本機械学会
 - 日本計画行政学会
 - 日本建築学会
 - 日本原子力学会
 - 日本コンクリート工学会
 - 日本災害情報学会
 - 日本自然災害学会
 - 日本集団災害医学学会
 - 日本森林学会
 - 日本地震学会
 - 日本地震工学会
 - 日本地すべり学会
 - 日本造園学会
 - 日本地域経済学会
 - 日本都市計画学会
 - 日本水環境学会
 - 農業農村工学会
 - 廃棄物資源循環学会



日本学術会議主催学術フォーラム

巨大災害から生命と国土を護る —三十学会からの発信—

日時：平成二十四年十一月二十九日(木)午後一時から午後八時(入場無料)

会場：日本学術会議講堂(東京都港区六本木七丁目十二番地三十四号)

日本学術会議
SCJ FORUM

東日本大震災を契機として、巨大災害から生命と国土を護るため、30学会が集まり連続シンポジウムを開催してきました。すべての学会の代表が結果し報告フォーラムを開催します。

プログラム

13:00 開会シンポジウム報告
司会：目黒公郎(日本学術会議常任委員、東京大学教授)
後 藤：大西 隆(日本学術会議委員、東京大学教授)
前 藤：泰弘(日本学術会議委員、第三部長、東京大学教授)
福田：孝(日本学術会議委員、土木工科大学(現東京工科大学)教授)
東京工業大学名誉教授

連続シンポジウム報告(第1回～第3回)
依田照彦(日本学術会議委員、野田大学学長)

13:20 学会代表およびディスカッション(詳細は1ページを参照ください)
コーディネーター：米田雅子(日本学術会議議事録委員、慶應義塾大学非常勤教授)

討論の30学会が4つのセッションに分かれて10テーマで議論します。

テーマ1：想定される巨大災害と国土づくり
テーマ2：巨大災害に強い地域・まちづくり
テーマ3：巨大災害にどう備えるか
テーマ4：国際災害と国土保護

17:30 会場挨拶 依田照彦

17:55 閉会挨拶 依田照彦

日本学術会議
SCJ FORUM

平成25年 第8回建設トップランナーフォーラム

インフラの町医者をめざして

【参考】

日 時：平成25年7月2日（火）9：30～18：00

会 場：日本建築学会 建築会館ホール 東京都港区芝5-26-20（JR田町駅、地下鉄三田駅徒歩3分）

会 費：無料（資料代1,000円／冊）

主 催：建設トップランナー倶楽部 共 催：日本青年会議所建設部会

後 援：全国建設業協会 日本プロジェクト産業協議会 建築技術支援協会 地方建設記者の会

開催趣旨

地域建設業は、災害が多発する日本列島の地域防災の最前線。

地域建設業は、老朽化する社会インフラを点検し維持する地域の町医者。

地域建設業は、複業により公共投資を産業創出につなげる地域の総合企業。

そこにいることが安心感につながる町医者のような地域建設業をめざそう。

申込方法

下記ホームページの申込フォームからお申込みください。

www.kentop.org/

懇親会

フォーラム終了後、下記の通り懇親会を開催します。奮ってご参加ください。（会費 5,000円）

18時-18時30分 ウェルカムドリンク

建築会館ホール・ホワイエ（ホール準備の間）

18時30分-20時 懇親会

建築会館ホール（日本建築学会）

インターネットで実況中継(ustream)

当日、建設トップランナー倶楽部のホームページ <http://www.kentop.org/> をご覧ください

参考書籍の頒布を予定

「複業のすすめ—地域建設業の挑戦」

建通新聞社 米田雅子＋地方建設記者の会

「大震災からの復旧-知られざる地域建設業の闘い」ぎょうせい 米田雅子＋地方建設記者の会

プログラム

【9時30分-10時】

開会のことば

日本青年会議所2013年度建設部会長
建設トップランナー倶楽部代表幹事・慶大

田井慶一郎 千葉県

趣旨説明

国土交通大臣
農林水産大臣
内閣府特命担当大臣（国土強靱化、防災担当）
衆議院議員 元国土交通大臣

米田雅子

太田昭宏（時間未定）

林 芳正（時間未定）

古屋圭司（時間未定）

金子一義（時間未定）

【10時-11時15分】 第1部 連携が新しい価値を生む

アドバイザー 国土交通省 技術審議官

深澤淳志

経済産業省 大臣官房審議官

横田俊之

介護とリフォームで雇用創出 セントラル建設社長

阿部伸一郎 岐阜県

ミラクルソルで日本水大賞 日本建設技術社長

原 裕 佐賀県

環境・エネルギーへの展開 中村建設社長

中村信吾 静岡県

【11時15分-12時30分】 第2部 複業により地域を活性化する

アドバイザー 林野庁長官

沼田正俊

農林水産省 大臣官房地方課長

塩川白良

おいしい野菜と森林整備 豊明建設社長

林 正英 鹿児島県

地域ブランドへの挑戦 植村建設取締役

植村真美 北海道

三宅島の緑化と島おこし 伊豆緑産社長

石森良房 東京都

【12時30分-13時30分】 昼休み 休憩

【13時30分-14時45分】 第3部 災害から地域を守る

アドバイザー 元国土交通事務次官

谷口博昭

日本建築学会会長・倶楽部代表幹事

和田 章

東北復興の現状と課題 深松組社長

深松 努 宮城県

豪雨災害の復旧と山村再生 川口建設社長

川口明久 和歌山県

地域建設BCPの提案 日本青年会議所建設部会

真鍋浩章 徳島県

【14時45分-16時】 第4部 老朽化から社会インフラを守る

アドバイザー 元国土交通事務次官

青山俊樹

西村あさひ法律事務所 代表パートナー

松嶋英機

世界遺産・知床の道を守る 斜里建設工業社長

土田好起 北海道

岐阜県メンテナンスエキスパート 丸入産業

加藤十良 岐阜県

青森県橋梁アセットへの取組み 中綱組社長

羽賀義広 青森県

【16時-16時15分】 休憩

【16時15分-17時55分】 パネルディスカッション「インフラの町医者をめざして」

キーノートスピーチ

岐阜県知事

古田 肇 岐阜県

パネラー 国土技術研究センター理事長

大石久和

愛亀 社長

西山 周 愛媛県

日本青年会議所2013年度建設部会長

田井慶一郎 千葉県

建設トップランナー倶楽部代表幹事・慶大

米田雅子

【17時55分-18時】

閉会の言葉 日本青年会議所25年度フォーラム実行委員長

真鍋浩章 徳島県

【18時-20時】 交流会

問合せ先：建設トップランナー倶楽部

事務局 〒113-0023 東京都文京区向丘1-5-4 ワイヒルズ2階 米田事務所内

田中清子、大里茂登子（NPO建築技術支援協会）

TEL: 03-5876-8461 FAX: 03-5876-8463

mail: info@kentop.org

ホームページ: <http://www.kentop.org/>